

I-4

I. 総論

検査値の解釈

鈴木りか

大原総合病院 産婦人科

はじめに

妊娠は、人口の半分を占める女性が、月経が開始して閉経するまでの間に経験しうる現象であり、病気ではないが健康に重大な影響をもたらしうる。日本の出生数はこのところ年間約107万人であるから、流産などを含めると約94万人の女性が常時妊娠している計算になる。妊娠した女性のほとんどが医療機関を訪れるため、すべての医療関係者は妊娠に関する知識を得ておかなければならない。本章では、産科の専門医でなくても必要な知識として、妊娠に関する検査データについて解説する。はじめに妊娠の診断に関する検査について、次に妊娠悪阻と検査データについて、そして妊娠の進行に伴って生じる妊婦の生理的変化を説明し、非妊娠女性と異なる検査データについて述べる。

1. 妊娠診断

妊娠に関連する検査において、ある意味で最も重要なのは妊娠の診断かもしれない。これは、生殖年齢の女性を診察する可能性があるすべての医師が知っておかなければならない。産婦人科の教科書に載っている妊娠診断法は表1のようなものであり、うち、産科医でなくても可能な項目には*印を付した。

最も重要なのは、尿中ヒト絨毛性ゴナドトロピン (hCG) の検出である。受精卵が子宮に着床すると、hCGが絨毛から分泌され、妊娠の最初の6週間にプロゲステロンを産生する黄体(卵巣)が消失することを防ぐ。hCGは尿中にも含まれており、これをモノクローナル抗体により検出し、陽性の変色反応を起こさせることによって妊娠を診断する検査用医薬品(キット)が多種類発売されている。現在日本で使われている主な尿hCG検査用薬を表2に示した。各検査で検出できるhCGの量は1~50 IU/lである。その違いによって妊娠を診断できる時期が決まる。25 IU/lで着床から3日(排卵の9±2日)、50 IU/lで着床から5日(排卵の12±2日)で陽性となる。血中hCGの倍増時間は1.4~2.0日、分泌のピークは着床の60~70日後である。尿中hCGの動きも血中hCGとほとんど同じと考えられてい

表1 妊娠診断の手段

| |
|------------------|
| 月経停止(問診)* |
| 妊娠反応(尿hCG定性、定量)* |
| 基礎体温* |
| 内診 |
| 超音波診断 |

*非産科専門医でも診断可能。

表2 主な妊娠診断薬・検査薬

| | 商品名 | 感度 | 測定原理 | 会社名 |
|----------|------------------|---------|--------------|----------------------------|
| プレートタイプ | HCGテストバック・プラスOBC | 25 IU/l | 免疫クロマトグラフ法 | 三和化学、塩野義製薬 |
| | スマイテストHCG | 15 IU/l | 金コロイド免疫クロマト法 | アルフレッサ |
| | Gチェック25 | 25 IU/l | 金コロイド免疫法 | ニプロ |
| | GチェックFT | 25 IU/l | 金コロイド免疫法 | ニプロ |
| | ゴールドサインHCGワンステップ | 25 IU/l | 金コロイド免疫法 | 森永乳業 |
| ストリップタイプ | hCGテストティゾー | 25 IU/l | 金コロイド免疫クロマト法 | 協和メデックス |
| | HCGテストM25 | 25 IU/l | 免疫クロマトグラフ法 | 森永乳業 |
| | ゲステートST-II | 25 IU/l | 金コロイド免疫クロマト法 | 栄研化学 |
| | ゴナスティック25 | 25 IU/l | 金コロイド免疫クロマト法 | 持田製薬 |
| | GチェックCA・N | 50 IU/l | 金コロイド免疫クロマト法 | ニプロ |
| スティックタイプ | クリアビューEASYHCG | 25 IU/l | 免疫クロマトグラフ法 | 関東化学、富士製薬、インバネス・メディカル・ジャパン |
| | HCGクイックチェッカー・S | 50 IU/l | 金コロイド免疫クロマト法 | ミスホメディー |
| | チェックワンファスト | 25 IU/l | 金コロイド免疫クロマト法 | アラクス |
| ラテックス法 | ハイゴナビス | 5 IU/l | ラテックス凝集法 | 持田製薬 |
| | ハイツインクロンhCG栄研 | 1 IU/l | ラテックス凝集法 | 栄研化学 |

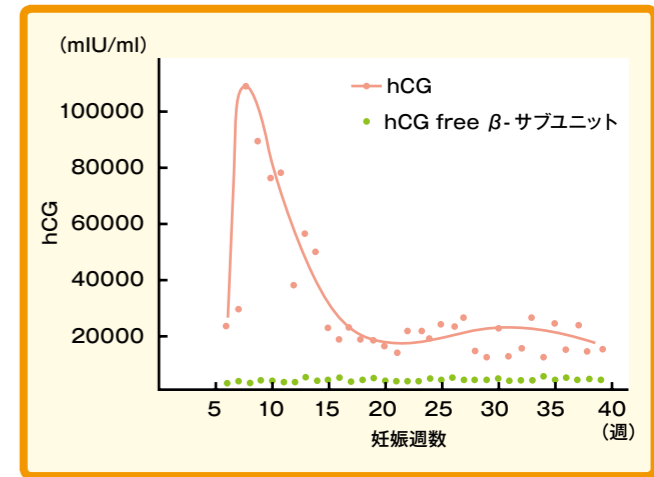


図1 妊娠中の血清hCG(文献¹⁾より引用改変)

る¹⁾(図1)。最も多く用いられている25 IU/lの検査薬であれば、排卵の周期が規則的な女性なら推定排卵日の2週間後から検査可能であり、予定月経日に月経がない場合などにも検査できる。しかし、陽性であれば妊娠しているとはっきりするが、陰性の場合には妊娠していないとはいえないため、1週間を目安に再検査する必要がある。

救急外来を腹痛などで受診する女性においては自分が妊娠しているとまったく思っていない場合もあるため、注意が必要である。

症例 42歳の女性

【現病歴】 突然月経のような性器出血が出現し、激しい下腹部痛と嘔吐あり。

【既往歴】 0妊0産。1年前に不妊を主訴に当院婦人科を受診。卵管造影で両側卵管閉塞の所見があり、卵管性不妊症と診断されている。

【問診】 「8週ぶりの月経」「それまでの月経は規則正しく来ていた」「妊娠の可能性はない」。不妊のため2年前にAクリニックを受診し、**両側卵管閉塞と診断されていた**。その後B病院でも同様の診断を受け、**自然**